

報道機関各位

熊本大学

熊本大学・マンスフィールド財団共催
日米関係セミナー：日米関係の現状と今後の展望

熊本大学グローバル教育カレッジでは、米国における知日層育成取り組みの一環として国際交流基金とモーリーン・アンド・マイク・マンスフィールド財団との共同企画により実施されている「日米次世代パブリック・インテレクチュアル・ネットワーク事業」によるセミナーを開催します。

一般の皆様へ広くお知らせいたしますと共に、取材についてよろしくお願ひいたします。

記

【日 時】平成29年6月15日（木）16：30～17：30

【場 所】熊本大学工学部百周年記念館（熊本市中央区黒髪2丁目39番1号）

【参加費】無料

【使用言語】英語

※詳しくは別紙チラシをご覧ください。

【お問い合わせ先】

熊本大学グローバル教育カレッジ
オープン教育センター
担当：ランダー シムズ
TEL：096-342-2091

日米関係セミナー：日米関係の現状と今後の展望

～「日米次世代パブリック・インテレクチュアル・ネットワーク」スカラーと語る～
マンスフィールド財団－熊大合同セミナー

日時 平成29年6月15日(木) 16:30～17:30
場所 熊本大学工学部百周年記念館 (200席)
アクセス: <http://www.kumamoto-u.ac.jp/campusjohou>
問い合わせ: 熊本大学グローバル教育カレッジ TEL096-342-2091
参加費 無料
※一般の方にも開放しております。お誘い合わせの上、ご来場ください。

プログラム

※ 本セミナーは英語での実施となります。

- 16:30～ 開会の辞
16:35～ 講演
1) ジェラルド・カーティス (マンスフィールド財団 理事)
2) レナード・ショッパ (バージニア大学 教授)
3) シーラ・スミス (外交問題評議会 日本研究上級フェロー)
モデレーター: ベンジャミン・セルフ (マンスフィールド財団 副理事長)
17:05～ パネルディスカッション: 現代日米関係について
17:15～ 質疑応答
17:25～ 閉会の辞 (ベンジャミン・セルフ マンスフィールド財団 副理事長)

「日米次世代パブリック・インテレクチュアル・ネットワーク」プログラム(ネットワーク・プログラム)は、日米間の政策過程において、長期的に多様な専門知識と視点を生かすことのできる日本の専門家育成・ネットワーク構築を目的として、2010年に創設され国際交流基金日米センター(CGPF)及びモーリーン・アンド・マイク・マンスフィールド財団により実施されています。選抜された若手の日本専門家12名は、2年間にわたり会合、日本視察、シンポジウム、報告会等のプログラムに参加します。本プログラムを通じて、日米関係の強化と、日米問題におけるさらに精力的で深い研究の活性化が期待されています。

この度はネットワーク・プログラムで諮問委員会を務める先生方にお越しいただき、日米関係の現状と将来についてご講演いただきます。



マンسفールド財団理事
ジェラルド・カーティス
(コロンビア大学)

コロンビア大学政治学部バージェス記念講座教授、早稲田大学公共政策研究所客員教授、東京財団上席研究員。

過去には王立国際問題研究所（ロンドン）、コレージュ・ド・フランス（パリ）、リークアンユー公共政策大学院（シンガポール）、慶応大学、早稲田大学、経済産業研究所、政策研究大学院大学、国際社会経済研究所に務めた経験を有する。これまでに中日新聞特別功労賞、大平正芳記念賞などを始め、様々な賞を受賞している。2001年には国際交流基金賞、そして2004年には日本政府の最も名誉のある賞の1つである旭日重光章を受章した。

『政治と秋刀魚——日本と暮らして四五年』、The Logic of Japanese Politics、The Japanese Way of Politics、Election Campaigning, Japanese Styleなどを代表とする数々の論文や著書を日英で出版している。日本語が堪能で、日本の日曜討論番組のレギュラーゲストでもある。



ネットワーク・プログラム
諮問委員
レナード・ショッパ
(バージニア大学)

ヴァージニア大学ウッドロー・ウィルソン政治学部教授及び教養学部社会科学担当副学部長。

1990年からヴァージニア大学で教鞭を執る。2000～2001年の間フルブライトリサーチ・フェローとして東京大学社会科学研究所及び国際基督教大学アジア文化研究所に在籍した。また1993～1994年の間、慶應大学総合政策学部で客員助教授を務めた。1984年ジョージタウン大学で学士号取得。1989年にオックスフォード大学で政治哲学博士号取得。研究分野は日本の政治と外交。

International Relations Theory and East Asia (Columbia University Press, David Kang と Ming Wan との共著)では、過去の東アジアの外交関係における主要な発展を振り返り、その発展が国際関係理論によってどの程度説明できるのか検証を行っている。



ネットワーク・プログラム
諮問委員
シーラ・スミス
(外交問題評議会)

外交問題評議会(CFR)の日本研究上級フェロー。

アジアの戦略地政治における変化が日本の戦略にもたらす影響について研究している。2015年秋には「北東アジアのナショナリズムと同盟マネージメント」プロジェクトを開始。

2007年から2008年に慶応大学の客員研究員として安部フェローシップの下、日本の対中政策を研究していた。さらに日本を代表する2つの安全保障・外交政策シンクタンク（日本国際問題研究所と平和・安全保障研究所）、東京大学、琉球大学で客員研究員を務める。

現在、日米両国間の学識者を一堂に集めて両国間の文化・教育交流に関する諸問題を討議する日米文化教育交流会議(CULCON)の副委員長を務めるほか、ジョージタウン大学のアジア研究学部で教鞭をとる。コロンビア大学政治学部より修士号と博士号を取得。著書に Intimate Rivals: Japanese Domestic Politics and a Rising China (コロンビア大学出版、2015年)と Japan's New Politics and the U.S. – Japan Alliance (CFR、2014年6月)がある。